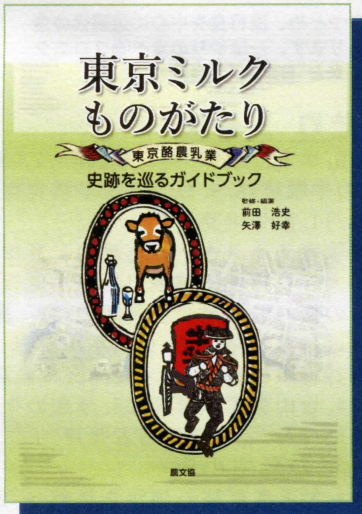


食卓のミルクの歴史は、東京のそして日本のミルク物語です！

東京ミルクものがたり

…… 東京酪農乳業 史跡を巡るガイドブック ……

前田浩史／矢澤好幸・編著 農文協発行 A5判 132頁カラー 定価 1,760円



日本近代のミルク文化発祥の地は、消費者である外国人が多く暮らした東京にありました。日本における酪農乳業は東京に始まり、とくに旧武士層の当時のベンチャービジネスとして全国に広がったのです。かの渋沢栄一も、牧牛・搾乳業に投資をしています。明治期の東京は牛乳搾乳業者、乳牛飼養頭数が全国最多の酪農王国だったのです。

しかし、明治期以降の都市化により都内の牧場は徐々に郊外や他県へと移らざるを得ませんでした。また、関東大震災、東京オリンピックなど様々な歴史をへて東京は一変し、酪農の地であった往事をうかがい知ることができなくなりました。そこで、「ミルク一万年の会」は、明治・大正・昭和期の東京酪農乳業の文献、記憶を拾い集め、また現在に残る史跡を訪ねて巡る「プラミルク@東京」の活動を始めました。その活動で蓄積された情報を整理し、東京の酪農乳業事業変遷のドラマを読み解く、史跡を巡るためのガイドブックとしました。

← 宣伝チラシ「引札」※お客を引く札から呼ばれた明治期に日本に輸入された乳牛の種類 ↓



【博覧共済販売所】 「東京酪農牛乳」の文字があるところあると、自説のオットウープ（商標登録商標）を利用してのようです。後方にはホルスタイン種を小さく描き、前方にはジャージー種を大きく描いています。



【協賛社】 埼玉熊野野にあった牛乳搾取販売所の引札です。洋装の少女が牛乳瓶の入った籠を持ち、さらに少女は牛乳を搾っています。画面の中には馬車や牛車などの風景が描かれています。乳牛はホルスタイン種、ジャージー種、エアシャー種など多くの品種が描かれています。



【酪乳舎】 東京に結んだ女性少女が牛乳を搾り、籠を持った絵です。背景に描かれているのは酪農協会の標本工によって飼養された乳牛の群像で、描かれている乳牛は、牛乳牛はエアシャー種です。

引札

現在のチラシやビラなどの広告物の呼びかけ、「お客を引く札」から引札になったといわれています。引札は当時の歴史資料として、また、絵柄の色合いから現在は美術品としても扱われています。

明治期に日本に輸入された乳牛

本表の中に登場する乳牛の写真を掲載しています。これらの乳牛は日本の酪農乳業の発展に大きく貢献してきました。

<p>ホルスタイン種</p> <p>オランダ北部のトイプ種北部に飼育されていたとされる古い品種で、日本では明治中期から輸入されているとされています。母牛は「乳牛の女王」と呼ばれ、搾乳量が非常に多く知られています。</p>	<p>ジャージー種</p> <p>英仏国境のジャージー島産の乳牛種。乳量が多く、濃厚乳の割合が高いとされています。かつては「乳牛の女王」と呼ばれ、搾乳量が非常に多く知られています。</p>	<p>エアシャー種</p> <p>イギリススコットランド産の乳牛で、日本で初めて「引札」がデザインに採用された品種です。日本では1876年（明治11年）に北海道で初めて輸入されたのが始まりで、明治中期から北海道を中心に、徐々にホルスタイン種に置き換えられてきました。</p>
<p>シンクスター種</p> <p>オランダのシンクスター島産の乳牛種。日本では明治中期から輸入されました。牛の体は大きくて乳用用途です。</p>	<p>ガーンジー種</p> <p>英仏国境のガーンジー島産の乳牛種。乳量が多く、濃厚乳の割合が高いとされています。かつては「乳牛の女王」と呼ばれ、搾乳量が非常に多く知られています。</p>	<p>セー種</p> <p>オランダ産の乳牛で、日本で初めて「引札」がデザインに採用された品種です。日本では1876年（明治11年）に北海道で初めて輸入されたのが始まりで、明治中期から北海道を中心に、徐々にホルスタイン種に置き換えられてきました。</p>

お近くの書店で是非！（又は注文 FAX. 03-3585-3668へ ※但し送料 400円+になります）

書名 **東京ミルクものがたり** ISBN 978-4-540-21181-2
 …東京酪農乳業 史跡を巡るガイドブック… 定価 1760円（1600+税）

御住所/お名前

冊

「古代には国営牧場が設けられ、向島の牛嶋神社や新宿の牛込といった旧跡や地名に名残をとどめていたり、江戸時代中期からは江戸城雉子橋門外で乳牛が飼われて乳製品を将軍に献上したり。とりわけ胸躍るのが文明開化期の東京だ。日本人の健康増進のため新政府がミルクを奨励したことで酪農がブームになり、都心部にたくさんの牧場がつけられた。やがてミルク生産の中心地は周辺部に移り、約60軒の牧場がある池袋が日本有数の酪農地帯になった。

本書はそうした東京のミルクの記憶を丹念に掘り起こし、歴史散歩へと誘うガイドブック。と同時に、酪農が近代化の重要産業だったことがわかる歴史書でもある。牧場経営が明治維新で失業した元サムライ達のベンチャービジネスだった話や芥川龍之介とミルクの深い関係など、トリビアも満載。牛乳好き、歴史好き、散歩好きにたまらない一冊だ」

※食文化研究者・料理編集者。『シェフ・シリーズ』『暮しの設計』（中央公論社）の編集長をつとめ、流行食を中心に近現代の食文化を研究・執筆。第3回食生活ジャーナリスト大賞受賞。著書に『ファッションフード、あります。—はやりの食べ物クロニクル』（ちくま文庫）、『〈メイド・イン・ジャパン〉の食文化史』『カリスマフード—肉・乳・米と日本人』（春秋社）など。

あなたが知らなかった情報いっぱい！【東京ミルクものがたり】目次

【第1章】東京酪農乳業史跡ガイド

4つの散策コース

①コース：明治維新～ミルクの足跡探訪

芥川龍之介生誕の地・耕牧舎東京本社跡地→東京酪農生誕の地→北辰社牧場跡地→伊藤左千夫の住居・牧場跡地→伊藤左千夫（墓碑）→エドウィン・ダン（墓碑）

②コース：古代につながる明治期～ミルクの足跡探訪

野馬方邸役所跡→神崎の牛牧跡地→私立獣医学学校発祥の地→平田牧場跡地→疫牛供養塔→牛屋横丁跡地→高田牧舎ミルクホール跡地

③コース：明治後期から昭和初期～ミルクの足跡探訪

島田牧場跡地→積田牧場大谷口搾乳所跡地

④コース：農業近代化の足掛かりを探る歴史散策

開拓使仮学校跡地→グラントの松→七星舎牧場跡地→開拓使第三官園跡地→近代農学発祥地・ケルネル田圃・駒場農学校跡地→四谷軒牧場跡地

【第2章】東京23区酪農乳業史跡27めぐり

1. 芥川龍之介生誕の地・耕牧舎東京本社跡地/2. 東京酪農誕生の地/3. 北辰社牧場跡地/4. 伊藤左千夫の住居・牧

場跡地/5. 左千夫墓碑/6. エドウィン・ダン（墓碑）/7. 野馬方邸役所跡/8. 神崎の牛牧跡地/9. 私立獣医学学校発祥の地/10. 平田牧場跡地/11. 疫牛供養塔/牛屋横丁跡地/13. 高田牧舎ミルクホール跡地/14. 島田牧場跡地/15. 積田牧場大谷口搾乳所跡地/16. 開拓使仮学校跡地/17. グラントの松/18. 七星舎牧場跡地/19. 開拓使第三官園跡地/20. 近代農学発祥地・ケルネル田圃・駒場農学校跡地/21. 四谷軒牧場跡地/22. 愛光舎牛乳店跡地/23. 長崎屋跡地/24. 岩山敬義顕彰碑/25. 浮島の牛牧/26. 前田留吉一族墓地/27. 北辰社牧場古井戸

【第3章】東京酪農乳業の誕生小史

1. 牧場の広がり_明治～大正東京都心部から郡部へ 2. 東京に乳文化が誕生した背景 3. 明治政府の畜産政策 4. 東京に牛乳搾取業が誕生 5. 牛乳番付表でみる搾乳業者一覧 6. 牛乳搾取業の特徴と経営収支 7. 明治初期に牛乳搾取業を先導した牛乳店_阪川牛乳店/北辰社/愛光社/耕牧舎新宿牧場ほか 8. 東京の牧場の風景明治 9. 都心の酪農の終焉と郊外へ移動 10. 東京酪農おもしろヒストリー